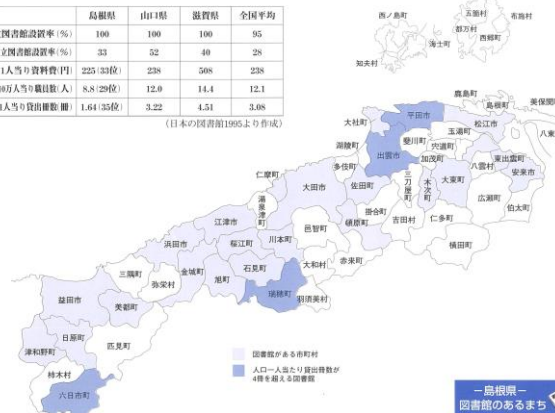


公共図書館等の状況（島根県を中心に） 島根県図書館大会

島根県立図書館
大野浩
令和5年11月4日
島根県民会館大会議室

	島根県	山口県	滋賀県	全国平均
市立図書館設置率(%)	100	100	100	95
町村立図書館設置率(%)	33	32	40	28
人口1万人当たり資料数(冊)	225 (33位)	238	508	238
人口10万人当たり職員数(人)	8.8 (29位)	12.0	14.4	12.1
人口1万人当たり貸出冊数(冊)	1.64 (32位)	3.22	4.51	3.08

(日本の図書館1995より作成)



図書館がまちに
あるということ

図書館がある自治体（島根県）

平成8年（1996） 27年前 59市町村 中25市町
令和5年（2023） 現在 19市町村 中17市町

図書館が誕生した自治体または地域（一部）

赤来町（現飯南町） 令和2年（2020）
西ノ島町 平成30年（2018）
邑智町（現美郷町） 平成27年（2015）
三隅町（現浜田市） 平成25年（2013）
海士町 平成22年（2010）
西郷町（現隠岐の島町） 平成11年（1999）

図書館＝本がある場所 を超える可能性

[瀬戸内市民図書館（もみわ広場）2016](#)
[高梁市図書館（駅直結 蔦屋書店 スタバ 図書館 観光案内所）2017](#)
[塩尻市立図書館（えんぱーく 塩尻市市民交流センター）2010](#)
[高知県立及び市立図書館（オーテピア高知図書館）2018](#)
[海士町中央図書館（島まるごと図書館構想）2010](#)
[西ノ島町コミュニティ図書館いかあ屋 2018](#)

キーワードは

「にぎわい創出」「交流」「コミュニティ」「合築」のほかにもある？

もみわ広場

瀬戸内市民図書館の基本理念「もちより・みつけ・わけあう広場」から名付けられた。

暮らしたり仕事、また夢や未来を考える中で生まれた疑問や課題を「もちより」、その解決方法や展望を「みつけ」、そして、そうした気付きや発見を、図書館にどう市民のみなさんと「わけあう」ことのできる、そんな「広場」を目指します。

(瀬戸内市民図書館もみわ広場ホームページから)

島根県公共図書館年報

島根県内の公共図書館の活動状況や統計をまとめたもの
(「島根の公共図書館」から「島根県公共図書館年報」に改題)

昭和53年度(1978)から毎年刊行

令和2年度(2020)から島根県立図書館のホームページに掲載
[島根県公共図書館協議会 - 島根県立図書館 \(shimane.lg.jp\)](http://shimane.lg.jp)

島根県の公共図書館の状況を知るのに適した資料

資源と成果

統計 投入資源や成果の数値が記されている

図書館の資源でわかりやすいのは、蔵書冊数
図書館の成果でわかりやすいのは、貸出冊数

「島根県公共図書館年報」から
それぞれの図書館の資源と成果を調べ、
その全体像を推察することができる。

資源と成果から、図書館の評価ができるか？

職員数
延床面積
蔵書冊数
受入冊数
新聞・雑誌受入数
予算・決算 など

貸出冊数
レファレンス件数
予約件数
事業・行事等
活動状況 など

評価

資源が多くあれば、高評価？

成果が大きければ、高評価？

蔵書冊数や貸出冊数の指標が使われやすいが、図書館の評価は難しい。

○一つ言えること

集客施設の多くは年を重ねるごとに利用減少するのに対し、ほとんどの図書館はいつまでたっても利用減少しない。

○その理由として考えられること

図書館は「何かを知りたい」人が利用する。

継続して利用する人だけでなく、必要に応じて利用する人がいる。
図書館は利用したい人に合わせて蔵書や情報が常に更新されている。

この10年の変化 「島根県公共図書館年報」の統計から1

コロナ対策による利用制限や臨時資料費などがあり、統計数値から、傾向を読み取りにくい部分もあるが、全体的にみると、投入資源も成果指標も、大幅な変化は見られない。

1 番大きな変化

- ・・・資料相互貸借が活発化している。
貸す側と借りる側が、お互い様になってきている。
＝インフラ化しつつある。

県内図書館相互貸借比較表

市町村名	H24年度相互貸借数				R4年度相互貸借数				中央館新設年
	借 受		貸 出		借 受		貸 出		
	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	
県立	222	116	9,138	8,715	642	628	9,845	9,511	1968
安来	1,081	975	222	211	1,372	1,338	432	428	2004
松江	496	385	737	792	959	727	366	392	1986
雲南	458	456	2	0	1,189	1,184	254	253	1993
出雲	1,320	876	1,027	974	675	561	1,409	1,376	1984
大田	545	520	387	372	1,643	1,627	439	429	1998
江津	1,359	1,346	2	1	876	858	0	0	1974
浜田	786	743	99	88	961	787	774	757	2013
益田	538	519	108	97	787	781	258	250	1993
飯南	116	116	0	0	329	329	0	0	2020
かわむと	226	226	44	49	127	127	61	69	1996
美郷	—	—	—	—	423	465	306	306	2015
邑南	672	672	117	112	634	631	289	278	1994
津和野	580	579	37	34	928	906	325	317	2003
吉賀	317	292	128	125	509	473	162	167	1989
海士	26	26	10	0	274	266	6	3	2010
西ノ島	—	—	—	—	237	237	192	185	2018
隠岐の島	158	159	37	37	144	131	221	218	1999
奥出雲	—	—	—	—	337	337	99	99	—
知夫	—	—	—	—	209	209	0	0	—

この10年の変化 「島根県公共図書館年報」の統計から2

全体的に増加しなかったが、増加する可能性を持っている部分

レファレンス件数

浜田、江津、飯南、津和野などが大幅に増加、
県立、出雲、大田、益田、隠岐の島が大幅に減少

減少している図書館は、20年以上に渡り全国平均レベルの貸出冊数を誇る図書館

県内図書館レファレンス件数比較表

市町村名	H24年度	R4年度	中央館新設年
	レファレンス受付件数	レファレンス受付件数	
県立	10,234	7,198	1968
安来	不明	8,540	2004
松江	3,545	3,748	1986
雲南	4,007	3,478	1993
出雲	10,133	6,423	1984
大田	4,163	2,905	1998
江津	851	2,663	1974
浜田	1,614	3,556	2013
益田	2,369	1,296	1993
飯南	30	693	2020
かわむと	3	13	1996
美郷	—	493	2015
邑南	860	不明	1994
津和野	134	408	2003
吉賀	不明	不明	1989
海士	62	164	2010
西ノ島	—	137	2018
隠岐の島	1,854	1,204	1999
奥出雲	—	—	—
知夫	—	—	—

図書館協力（資料貸出とレファレンスの面から）

自分がA市民だとして、

A市図書館に所蔵していない資料の利用 をどうするか？

A市図書館では応えることができないレファレンス をどうするか？

A市民、A市図書館、ともに「あきらめる」という選択？

他の図書館から、その資料を借りる・・・**資料相互貸借**
他の図書館に、そのレファレンスを依頼する・・・**協力レファレンス**

公共図書館等の状況変化 少し長いスパンで

長く「来館者への資料提供（貸出）を重視」していた時代があった。
従来から貸出冊数の多い図書館が高評価を得がちだった。

これから先、人員、資料、建物など投入資源が大幅に増加することも、
貸出冊数などの成果が大幅に増加することも、当分の間、無さそう。

この10年ほど

⇒相互貸借は活発化

⇒レファレンスは増加する図書館と減少する図書館

公共図書館に求められていること

図書館は「何かを知りたい」人が利用する。

図書館は蔵書や情報が常に更新されている。

⇒このことは変わらない。

知りたいこと色々

- ・知識、技術
- ・レクリエーション（小説等）
- ・アイデア、発見
- ・精神の糧
- ・その他

従来、図書などの資料提供（貸出）を求められることが多く、
蔵書を多く整備している図書館が求められていた。

変化

「図書館＝本がある場所」を超える可能性

「図書館＝本がある場所」を超える可能性

図書館サービスは、2本立て
資料提供サービス（貸出等）
情報サービス（レファレンス等）

従来から貸出は頑張ってきた。
情報サービスの可能性はまだまだある。

資源の量は気になるが、図書館協力体制は維持できている。
県立図書館職員として島根県図書館協会に期待するところは大きい。